

- * 聖書の神は真実なお方で、決して嘘をつかないし、約束されたことは必ず守られる。だから私たちは信じ、信頼することができるのである。神のアブラハムとの約束は創世記17章にある。このことをパウロは解説する。「ところで、約束は、アブラハムとそのひとりの子孫に告げられました。神は「子孫たちに」と言って、多数をさすことはせず、ひとりをさして、「あなたの子孫に」と言っておられます。その方はキリストです。」（ガラテヤ3：16）
- * 律法はアブラハムの時代から430年も経ってからモーセ率いるイスラエルのために与えられた。律法を守らないと祝福されないという厳しいものであった。しかし、アブラハムに約束された「信仰によって義とされる」という、救いの約束は、律法の時代も続いていた。「なぜなら、相続がもし律法によるのなら、もはや約束によるのではないからです。ところが、神は約束を通してアブラハムに相続の恵みを下さったのです。」（3：18）「相続」とは神の国の相続のこと。神の約束は変わらない。
- * それではどうして「律法」が与えられなくてはならなかったのか。それは、神の唯一の契約の民イスラエルが一致するために与えられたのだと思う。分裂して弱まって行ったのでは存続さえ危ぶまれたであろう。そして根本的理由は、「では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです。」（3：19）律法は神から与えられた基準であるが、人間がいかにか守ることが難しいかを明らかにするために与えられたのである。イエス・キリストが山上の説教の中で言われていることを見てもわかる。（マタイ5：22～28参照）
- * 「しかし聖書は、逆に、すべての人を罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人々に与えられるためです。」アダムとエバ以来すべての人が罪から抜け出すことができないのを、イエス・キリストが来られて、この方を信じることによって救われることを神は明らかにしてくださった。私たちが救われるのはキリストの十字架の贖いという方法よってである。その救いは贖いを信じる信仰による。（ガラテヤ3：13～14参照）このことはアブラハムの時からの神の約束である。アブラハム以来信仰によって救われることは変わらない。信頼できる聖書、真実の神を信じる充実感と安心感を皆で是非味わいたい。